

令和8年度 県立結城第二高等学校自己評価表

目指す学校像	これまでの学校生活で個性・能力を十分に発揮できなかった生徒たちに対して、「人とながるオンラインワーク、みんなが資源、みんなで支援」を基調とし、以下の学校像を目指す。 1 個に応じた指導をとおし、向上心を高め、自己実現を目指す学校 2 自己肯定感を増い、自他を理解・受容し、社会性をはぐくめる学校 3 地域社会と連携し、いつでもだれでも学べる、地域に開かれた学校 4 本校に携わるすべての人がWell-Beingであるために、自他を尊重し、互いの長所を生かして物事に取り組める学校		
三つの方針		具体的目標	
「三つの方針」 (スクールポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーションポリシー)	これまでの学校生活で個性・能力を十分に発揮できなかった生徒たちに対して、「人とながるオンラインワーク、みんなが資源、みんなで支援」を基調とした教育活動により次のような生徒の育成を目指します。 1 自他を理解・受容できる生徒 2 社会性が身についた生徒 3 何事にも主体的・協同的に取り組める生徒	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	多様化する生徒に対応した学習の形態を準備し、そのニーズに応えるとともに、生徒一人ひとりの自己理解、自己実現を促すために次のような教育活動を行います。 1 多彩な選択科目と、少人数や習熟度による授業の実践 2 心のサポートの充実と思いやりの心の育成 3 社会性の醸成と地域社会に貢献する姿勢の育成	
	「入学者の受け入れに関する方針」 (アドミッションポリシー)	お互いを大切にしながら学び合い、協力し合う学校を目指して、次のような生徒を募集します。 1 向上心を持って取り組もうとする生徒 2 自他を尊重しようとする生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組める環境整備と、個に応じた支援・指導の充実。 ・ICTを活用した教材の共有化及び授業実践のさらなる充実。 ・自己肯定感からの積極性の醸成。 ・プロアクティブな支援の実践。 ・外部機関や地域との連携を通じた生徒の人間性向上。 ・自己理解を深め、長期的視野に立った進路実現。 ・年次と進路が連携し、外部機関を活用した進路ガイダンス等の充実。 ・インターンシップ等による企業との連携強化。 ・学校行事等とおとしたキャリア形成。 ・キャリア形成年間計画へのキャリアパスポート等の位置づけを明確化。 ・教職員の連携を強化及び生徒理解の一層の促進。 ・教職員向けの研修会の実施、校外研修への積極的参加等による教育相談技術のスキルアップ。 ・生徒が利用しやすい教育相談体制のさらなる工夫。 ・SC、SSW、SSS、部活動外部指導者等の活用の充実。 ・同僚性の構築と業務の平準化の推進。 ・業務の軽減を目指したポータルサイトの更なる有効活用。 ・授業におけるICT機器の更なる利用促進。 ・授業のユニバーサルデザイン化の徹底と分かる授業の更なる実践。 ・一人ひとりを大切に授業づくり。 ・ルーブリックを活用した「指導と評価の一体化」の検討。 	規範意識の醸成、コミュニケーション力の向上を図り、自律的生活習慣の確立及び社会貢献できる豊かな人間性の育成	① 社会性の向上を目指した、各種講習会や授業、学校外学修等を企画・実践する。 ② コミュニケーション力の向上や豊かな心育成とともに、規範意識を培うための取組を推進する。	
	一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実	③ 特別な教育的支援を必要とする生徒への理解と指導力の向上を図る。 ④ 問題行動の未然防止に努める。 ⑤ 声掛け、面談、見守り等とおして自己肯定感を高める。 ⑥ キャリアパスポート等を活用しながら一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援を実践する。	
	「働き方改革」と学校運営体制の充実	⑦ 時差出勤を利用し、ワークライフバランスを意識した働き方を推進していく。 ⑧ 教科内・教科間における教材の共有や分掌間の情報共有を密にして、業務の省力化を図る。スクラップ・アンド・ビルドの考え方で慣習にとらわれず、業務を精選する。 ⑨ 「チーム学校」の実現に向け、SC、SSW、SSS、部活動外部指導者等の活用と連携、キャンパスエイド、学習サポーターの活用を推進する。 ⑩ ポータルサイトの利用促進により、更なる業務軽減を目指す。	
授業改善	⑪ ルーブリックを活用した「指導と評価の一体化」を推進し目標を明確にすることで、自己の成長を認識できるようにする。 ⑫ 視覚的に理解しやすい授業と、対話を取り入れた授業を実践する。 ⑬ 授業のユニバーサルデザイン化を徹底する。 ⑭ 「生徒による授業評価」の授業満足度において肯定的な意見が85%以上(3.4以上)になることを目指す。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
国語	到達目標の明確化と自己評価力の育成	模範例(良い答案・発表)を提示し、評価基準を具体的に共有する。 振り返りシートに自己評価欄(ルーブリック対応)を設ける。	①	
	視覚的支援と対話活動を通じた思考力・判断力・表現力の育成	板書やスライドで論理構造(対比・因果・主張)を図式化する。 ペア・グループでの対話(根拠を示した説明・意見交換)を毎時間実施する。	②⑦	
	学習参加を促すユニバーサルデザインの授業環境の整備	授業の流れと到達目標を毎時間明示する。 書く・話す・図示するなど多様な表現方法を認める。	③⑬	
	授業改善	小テストやミニ課題で成功体験を積ませる。 生徒アンケートを分析し、授業改善に反映する。 身近な話題や探究的課題を取り入れ、学習意欲を高める。	③⑭	
地歴・公民	主体的意欲的態度の育成	ICTを積極的に活用し、意欲・関心を高める授業を進め、基礎的な知識の定着を図る。	①③	
	基礎学力の定着	現実社会の諸問題等を考えさせ、社会に適應できる一般常識や基礎学力を身に付けさせる。	②③	
	授業改善	生徒一人ひとりの理解度に即した授業展開と、ICT機器による統計、史料、地図等の効果的な活用	⑫	
数学	個に応じた指導	習熟度別授業を展開することで、個々の能力に応じた指導を実施する。机間指導をこまめに行うことで、個々の生徒に対応した指導を実践する。	⑤⑪	
	基礎学力の定着	問題演習の時間を充実させ、学習内容の理解と定着を図り、主体的に授業に参加する姿勢を育てる。	⑤⑪	
	ICTを活用した授業づくり	ICTを活用した授業展開及び教材研究を行い、効果的な活用方法を検討する。	⑫⑬	
	授業改善	相互授業参観や、ICT活用のサポートを行い、授業改善に努める。	⑧⑫	
理科	関心・意欲の向上	観察・実験を重視する等、自然体験の機会を積極的に設ける。その際、生徒の班編制は活動しやすいものとし、必要ときはチームティーチングを行う。 教材を工夫し、主体性の向上を図る。	①③ ②③	
	基礎学力の向上	基礎的な学習内容についてテストを行い、理解度を調べると共に、基礎的な学力の伸長を図る。	④	
	ICTを活用した授業づくり	ICTを活用した授業展開及び教材研究を行い、効果的な活用方法を検討する。	④	
	授業改善	相互授業参観や、担当科目以外への授業参加・ICT活用のサポートを行い、授業改善に努める。	⑬	
保健体育	指導計画の改善・充実	・中学校第3学年との接続を重視し、学習の最終段階の役割を踏まえた指導計画の作成 ・各領域特有の特性や魅力を深く味わえることができる学習過程の工夫 ・体育と保健を関連づけた指導の充実	①②③ ⑫⑬	
		・自他や社会の課題を発見し、その合理的、計画的な解決のための言語活動の充実 ・男女共習で学習を行い、体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な関わり方を選択し、実践できる指導の工夫	①②③ ⑫⑬	
	観点別評価のさらなる推進	・年間指導計画に位置付けた目標及び評価基準の明確化 ・生徒の学習意欲の向上を図った、指導と評価の一体化による授業改善	⑪	
	自他の健康の保持増進を実践する力を育てる保健の授業の展開	・課題の発見と解決に向けた話し合い等の主体的・協働的な学習場面の設定 ・情報の収集、意見の共有、表現等の場面におけるICTの効果的な活用	①②③ ⑫⑬	
		・年間指導計画に位置付けた目標及び評価基準の明確化 ・生徒の学習意欲の向上を図った、指導と評価の一体化による授業改善	⑪	
	保健	・年間指導計画に位置付けた目標及び評価基準の明確化 ・生徒の学習意欲の向上を図った、指導と評価の一体化による授業改善	⑪	
芸術	授業態度の確立	教室の利用、道具の準備やかたづけ等、ルールを守って授業に臨む態度を育てる。	①②③	
	基礎技術の習得と向上	生徒の技術力を向上させるためのサポートを常に心がける。	⑩⑫⑭	
	表現力の養成	芸術を通して自己を表現することにより自己実現ができるよう、表現力を育成する。	⑫⑬	
	鑑賞能力の向上	すぐれた作品に触れる機会を増やし、身近に感じることができるようにする。	⑫⑬	
	授業改善	実際に芸術に触れる機会を増やすとともに、ICTを積極的に効果的に活用する。	⑫⑬	
英語	基礎学力の向上	習熟度に応じたワークシートの作成やアクティビティの実践によって、授業内容の定着を図る。 家庭学習課題を適宜生徒に課し、学習習慣を確立させる。	①⑧	
	学習意欲の向上	生徒が自己評価をすることによって、自ら学ぶという態度を育てる。 学習意欲を高められるよう、習熟度に応じた指導を実践する。	① ②⑪ ③⑤	
	主体的なコミュニケーション能力の育成	ペアおよびグループワーク活動を適切に授業に導入する。 ICTを活用して、本校に適した英語によるコミュニケーション活動を実践する。	②⑤ ②⑦	
	授業改善	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた視覚的に分かりやすい資料をICTで提示し、全生徒の理解を支える。	⑬	
	基礎知識・技術の向上	生徒の実生活に即した内容を取り入れ、ICTを利用しながら、少人数による個に応じた指導を行う。 個々の生徒の進度・達成度を把握し指導を行う。製作実習に関しては、完成までのプロセスを重要視し、指導やサポートを行う。	①② ③⑤⑦	
家庭	創造的・実践的態度の養成	家庭クラブ活動等、課題解決学習を積極的に取り入れ、学習した内容を生徒が生活の中で生かせる能力を養う。	①②	
	授業改善	生徒による授業アンケートの内容を分析し、授業内容や指導方法の工夫・改善に努める。 相互授業参観やTTIによる生徒に合わせた指導や、ICTを効果的に活用した授業改善に努める。	③④ ②③⑬	
	指導方法の工夫と学習意欲の喚起	内容・教材の精選や工夫を行い、情報社会において必要な基本的知識、モラルなどを身に付けるとともに、情報社会に参画させる態度を涵養する。	①②	
情報	学習意欲の向上	ICT機器などを活用し、即時的なフィードバックを可能にすることで生徒の学習意欲を高める。	③⑫⑬	
	授業改善	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、教科横断的な内容を扱うことによって、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。	③⑫	
	指導方法の工夫と学習意欲の喚起	高等学校から学習が始まることを鑑み、スモールステップを活用し、学習ができたという自己肯定感を高めさせられる授業を行う。	⑤⑪	
商業	学習意欲の向上	日本情報処理検定協会主催の各種検定や全国商業高等学校協会主催の各種検定について、演習を行い、資格取得を通じて学習意欲を向上させる。	①⑩	
	授業改善	ICT機器やベアワーク等を有効的に活用し、双方向的な学習を展開するとともに、協同的な学習を実践する。	②③⑬	

※評価基準A:達成できた、B:ほぼ達成できた、C:あまり達成されていない、D:達成されていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教務	授業時間の確保	行事等の精査により、授業時間の確保に努める。	① ⑧	
	本校独自の教育課程の検討	年間指導計画に基づき、観点別評価をふまえたシラバス作成を支援する。	⑪ ⑫	
	ICT機器の有効活用	教員間の公開授業により、授業スキルの向上を図る。 BYODの積極的な活用を推進するとともに、効果的な利用について検証する。	① ⑨ ⑫ ⑬	
	広報活動の改善、推進	資料の電子化や情報共有システムを推進することで、業務の効率化を図る。 魅力的なポスターや学校案内を作成するとともに、学校ホームページを活用した広報を推進する。	⑩ ⑫ ① ⑫	
	図書活動の充実と読書習慣の推進	聴講生制度により、地域に開かれた学校を目指す。	① ⑬	
		図書館内の美化や図書の配置・整備をし、図書館利用の活性化を図る。	①	
		図書館利用のマナーを身に付けさせる。 生徒・教師のニーズに合わせた新刊図書・資料の充実を図る。	① ③ ⑫	
	図書館だよりを発刊するとともに、図書委員会の活動を活性化させる。	① ⑫		
	持続可能な業務システムの構築	作業の精選やマニュアル化とともに、作業の共有を図ることで、人事異動等に影響されない本校の複雑な業務システムの構築を目指す。	⑧ ⑩	
生徒支援	生徒理解に基づく指導	アンケートや個別面談を始め、学校生活のあらゆる場面を利用して生徒理解に努める。 生徒に関する情報の整理・共有化を推進し、いっそうの生徒理解を図る。	② ⑤ ③ ⑤	
	自律的生活習慣の確立	個に応じた生徒指導を工夫・実践する。	③ ⑤	
	安全教育の推進及び環境整備	年間を通じた登校・下校指導により、個に応じた指導を行いつつ、規範意識の高揚を図る。 外部と連携した交通安全教室・自転車点検・日常の交通安全指導の実施によって、交通モラルを身につけさせる。	② ⑤ ① ②	
		外部と連携した携帯電話安全教室や防犯講話・平素からの情報モラルの指導によって、安全・適切なSNSの利用の仕方を身につけさせる。	① ②	
		年間を通じた防犯パトロールや登下校指導等、生徒の安全・安心を守る取組を継続する。	②	
	豊かな人間性の育成	ゲストティーチャーによる講話やマナーやルールについて考える機会を持つことにより他者理解や豊かな心の育成を図る。	② ⑤	
地域との連携	関係機関や地域内学校との連携、協力体制を継続・発展させる。	② ⑤		
特別活動	ホームルーム活動及び学校行事の充実	地域で働く人や住民から「結城二高サポーター」として、生徒指導の協力を得る。 多くの生徒が参加できるようにホームルーム活動や学校行事の形態を工夫する。 担任との連携を密にしながら、多くの生徒が参加できる三部合同のすずかけ祭を企画・運営する。	① ① ①	
		行事を活用することで、生徒の社会性及び主体性の育成を図る。	① ②	
		生徒会本部役員のリーダーシップを生かした学校行事にする。	① ②	
	部活動の充実	キャリア・パスポート等を活用した活動を行い、生徒の自己理解、教員の生徒理解を深める。 多くの生徒が部活動に参加できるように、各部顧問・体育科等と連携を密にし、活動場所、活動時間等を確保する。	⑥ ⑥	
	部活動の活動計画を明確化することにより、活性化を図る。	⑥		
進路指導	社会性や職業観を育成する体験的な学びの充実	・外部講師による講演会や進路ガイダンスを計画的に実施する。 ・インターンシップや職場見学、大学見学など学校外学習を推進する。 ・事前・事後指導(目的設定・振り返り)を行い、学びを定着させる。	①	
	多様な教育的ニーズに対応できる進路指導力の向上	・校内研修や事例共有を通して支援方法の理解を深める。 ・個別的教育支援計画等を活用し、実態把握に基づく指導を行う。 ・スクールカウンセラーや特別支援コーディネーター、外国人支援コーディネーター等と連携する。	③	
	生徒の自己肯定感と自己有用感の育成	・日常的な声掛けや面談により、生徒理解を深める。 ・安心して相談できる環境(雰囲気・体制)を整える。	⑤	
	一人ひとりの進路実現に向けた個別最適な指導の充実	・進路ガイダンスなど進路行事の学びや経験の蓄積・可視化を行う。 ・保護者や外部機関と連携し、多面的に進路支援を行う。	⑥	
保健厚生	生徒が学習するための環境整備と安全教育	生活範囲の環境美化に努めることを通じて、環境美化意識を養い、豊かな心を育成する。 安全教育を通して、自他の危機を回避する意識を高める。	② ①	
	心身の健康促進	心身の健康の状態を的確に把握し、自主的に健康を保持増進する意識を持たせる。 健康講話を通じて、正しい知識を身に付けさせ、健康で安全な生活を送れる力を養う。	① ①	
		教職員や関係諸機関と連携をとり、生徒の心身の健康状態について共通理解を持ち、「チーム学校」として適切に対応できるよう努める。	⑨	
渉外	保護者と教職員の協力と連携	保護者と教職員が連携し、円滑なPTA活動が行えるよう、クラス担任を中心に積極的に保護者に働きかける。	⑨	
	PTA活動の活発化	各専門委員会、理事会等の活発化のため、本部役員と連絡を密にし、保護者の参加率の向上に努める。	⑨	
	同窓会と連携協力	同窓会活動が円滑に行われるよう、連携協力に努める。	⑨	
コーディネーター	組織的な相談体制作り、個に応じた対応の強化	カウンセリングや特別支援教育、具体的な支援方法等に関する研修会を実施し、個々の教職員の専門性向上を図る。 スクールカウンセラー、キャンパスエイド及び関係職員と連携協力し、支援体制の充実を図る。	① ③ ⑤ ⑨	
		生徒の心身の健康の状態を的確に把握できるように各年次・部との連携を密にし、関係機関とも連携しながら、個に応じた適切な対応の充実を図る。	⑤ ⑨	
	一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実	特別な教育的支援を必要とする生徒への理解と指導の充実を図り、特に配慮を要する生徒に関しては、「通級による指導」を実施して生徒が自己理解を深めながら、課題克服に向けて学習に取り組めるように指導する。	③ ⑤	

※ 評価基準 A:達成できた、B:ほぼ達成できた、C:あまり達成されていない、D:達成されていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
1年次	生徒の自己肯定感や自己有用感を高め、自己実現のための指導や支援の充実	LHR等を利用して自己をみつめる時間を確保し、自分と他者を認め合う心の育成に努める。	① ⑤	
		他者や社会とのかかわり方を学ばせ、社会性の育成に努める。	① ②	
		学校生活を通して、基本的な生活習慣や規範意識を考えさせる。	② ⑤	
	生徒の問題行動や不登校等への対応の充実	教員間での情報共有を密にし、校内各部と速やかに連携して、それぞれの生徒に適切な支援を行う。	③ ④	
		学校外の機関と連携し、それぞれの生徒に必要な支援を行う。	③ ⑨	
		日頃から生徒を観察し、問題行動等の未然防止・早期発見・解消に努める。	④ ⑤	
学校教育活動全体を通じて行うキャリア教育の充実	LHR等を利用して進路について考える時間を確保し、自ら考える力を養う。	①		
	進路について選択の幅を広げられるように、進路行事への積極的な参加を促す。	⑥		
2年次	他者とながら力の育成	総合的探究やLHRにおいて、地域や外部機関と連携しながら広い視野と豊かな心の育成に努める。	① ⑨	
		文化祭や修学旅行等の学校行事を通して、自らを育むとともに他者を理解・受容する態度の育成を図る。	② ⑤	
		あいさつの励行や身だしなみの指導を徹底することで、社会性の育成を図る。	②	
	問題行動や不登校等への対応の充実	教員間での情報共有に努め、校内各部と速やかに連携して、個々の生徒に適切な支援をおこなう。	③ ④	
		SCやSSW等の専門機関と連携し、困難を抱える生徒に必要な支援をおこなう。	③ ⑨	
		日常的に細やかな観察をおこない、いじめの早期発見と解消に努める。	④ ⑤	
進路意識の向上	進路指導部と連携し、明確な進路目標の設定を促す。	⑥ ⑨		
	ガイダンスや講話等、進路について考える時間を確保し、目標実現に向けて取り組む。	① ⑥		
3年次	組織的な相談体制に基づく生徒の心理的な援助の促進	関係職員と連携・協力し、支援体制の充実を図る。	④ ⑧	
		各生徒を理解・把握し、職員間の情報共有に努める。	⑥	
	一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導の充実	合理的配慮を要する生徒の理解、指導と評価の改善を図る。	③	
		学習、生活上の困難に対応できる力の育成を図る。	② ⑤	
	進路意識の向上及び進路実現に必要な能力の育成と情報提供	進路ガイダンス、面接指導の充実や適切な進路情報を提供し進路意識を向上させる。	① ⑤	
		多様な生徒に対応した指導に取り組み、生徒の主体的な進路選択や進路実現を図る。	③ ⑥	
カウンセリングコーディネーターと協力し、合理的配慮を要する生徒の進路実現を図る。		③		
4年次	組織的な相談体制に基づく生徒の心理的な援助の促進	関係職員と連携・協力し、支援体制の充実を図る。	④ ⑧	
		各生徒を理解・把握し、職員間の情報共有に努める。	⑥	
	一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導の充実	合理的配慮を要する生徒の理解、指導と評価の改善を図る。	③	
		声掛け、面談、見守り等とおして自己肯定感をたかめる。	⑤	
	進路意識の向上及び進路実現に必要な能力の育成と情報提供	進路ガイダンス、面接指導の充実や適切な進路情報を提供し進路意識を向上させる。	① ⑤	
		多様な生徒に対応した指導に取り組み、生徒の主体的な進路選択や進路実現を図る。	③ ⑥	
カウンセリングコーディネーターと協力し、合理的配慮を要する生徒の進路実現を図る。		③		

※ 評価基準 A:達成できた、B:ほぼ達成できた、C:あまり達成されていない、D:達成されていない